

この教科書は各課とも「PART 1」から「PART 4」の4つに分かれています。各パートの目的は次の通りです。

<p>PART 1 「かんがえよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の動機づけを行う ・学習項目への気づきを促す 	<p>PART 2 「じゅんびしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PART 3「さあ、ほんばん！」に向けて準備、練習をする 	<p>PART 3 「さあ、ほんばん！」 「ふりかえり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の場面／実際に近い場面でインターアクションをする ・内省を行う 	<p>PART 4 「生活の中でつかおう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活の中で使うように促す
--	--	---	---

4つのパートをイメージしやすいように「泳ぐこと」に例えると、次のようになります。



PART 1



PART 2



PART 3



PART 4

1 授業を始める前に

どの課でも、学習を始める前に、PART 3 **さあ、ほんばん!** の「私のクラスのインターアクション」の活動を設定します。その際、PART 1 の**3**「1) この教科書のインターアクションの例」を参考にしてください。それを踏まえて、PART 1 から PART 4 を進めてください。

例 1) この教科書のインターアクションの例
 An example of interaction

どんな場面?
 In what situation? → あなたの日本語のクラスに日本人ビジターがきます。そして、教室で交流パーティーをします。
 Some Japanese visitors will come to your Japanese language class and you will have a cultural exchange party in the classroom.

誰と?
 With whom? → おなじ大学の日本人学生たち (初めて会う人)
 Japanese students of your university (You will meet them for the first time)

何をします?
 What to do? → 初めて会う人と日本語で自己紹介をして、お互いのことについて話します。
 Introduce yourself in Japanese to someone you meet for the first time and have a talk about each other.

2 各課の構成

まず、タイトルとその下の説明を読んでください。始める前に、学習者に課で取り上げる場面と活動が自分にとって必要であると思わせることが大切です。ここで、担当するクラスの学習者に合わせ、場面に参加する意義を説明し、動機づけを行います。

PART 1

かんがえよう：どんな場面？

1 あなたはこの場面をどう思いますか。

ここではよくある接触場面を4コマ漫画で表しています。この漫画の目的は、読んで気づいたことを自由に話しあってもらい、場面に必要な社会文化的、社会言語的、言語的なことについて気づきを促すことです。お互いの経験を話すなど、自由に楽しく話す場にします。

2 あなたについて話しましょう。

学習者自身の経験や考えを話すことで、学習項目を身近に感じてもらい、学習の動機を高めます。

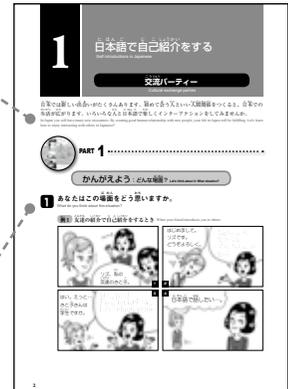
3 この課ではどんなインターアクションをしますか。

1)では、「この教科書のインターアクションの例」として具体的な場面を示しています。これを参考に、2)の「私のクラスのインターアクション」を設定*してください。その際、実際の場面／実際に近い場面をつくり、学習者が本気で取り組むことができるインターアクション活動をデザインすることが大切です。

*『教師用手引き』（凡人社ウェブサイトよりダウンロード）を参考にしてください。

4 この課の目標

「この課の目標」はPART 2の<インターアクションのポイント>と連携しています。学習者が聞き慣れない言葉もあるので、ここでは説明に時間をかけず、PART 2で練習しながら徐々に意味を理解してもらおうとスムーズに進みます。



かんがえよう：どんなインターアクション?

ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、会話A（うまくいかなかった例）とB（うまくいった例）の2つの例を提示しています。会話Aのイラストは場面の理解を助け、音声では表せない非言語的なものを表すために入れました。会話Bは会話Aとまったく同じ登場人物と同じ場面です。2つの例を比べて、学習者にどんな違いがあるか話しあってもらい、気づきを促すことが目的です。教師の考えを主張するのではなく、学習者に自由に意見を述べてもらうようにします。

1 次の音声を聞いてみましょう。

会話A

会話B

PART 2

じゅんびしよう

<インターアクションのポイント>

PART 3で行われる「私のクラスのインターアクション」の準備をします。

まず、「この課の目標」で挙げたポイントを教科書のインターアクションの例を参考に練習します。ポイントの見出しは質問形式になっています。学習者に考えてもらいながら取り組んでください。正解があるものとなないものがありますが、学習者らしい言い方やインターアクションができるように導いてください。

次に、『じゅんびシート』（付属 CD-ROM に収録）を使って「私のクラスのインターアクション」のために準備し、学習したことを整理してください。

PART 2 じゅんびしよう

1 インタラクティブな準備をしよう

2 インタラクティブな準備をしよう

<リハーサル>

PART 3 さあ、ほんばん！ に向けて、一連の流れを通してインターアクションをします。そのあとで、「この課の目標」のポイントができたかどうかチェックします。

<まとめシート>

この課で学習した表現などを整理して、『まとめシート』（付属 CD-ROM に収録）にまとめます。

<リハーサル>

1 インタラクティブな準備をしよう

2 インタラクティブな準備をしよう

3 「私の目標」を書きましょう

<まとめシート>

3 本書で使うシートについて

*付属のCD-ROMに、下記のシートがPDFで収められています。必要に応じて、プリントアウトしてお使いください。



れんしゅうシート (CD-ROM)

PART 2 <インターアクションのポイント>の練習に付属するシートです。より充実した練習ができるように、必要なタスクシートやカードをまとめました。



じゅんびシート (CD-ROM)

「私のクラスのインターアクション」の準備をするためのシートです。PART 2 <インターアクションのポイント>の POINT に沿って作られています。教科書の例、クラスで練習したこと、話しあったことなどを参考に、自分らしい表現やインターアクションの方法を整理します。必要に応じて POINT ごとに、または<インターアクションのポイント>が終わったあとに使用します。



まとめシート (CD-ROM)

PART 2の最後に、この課で学習したことをまとめるシートです。言語的なもの(新しい言葉、表現、発音など)と社会言語的・社会文化的なもの(場面で気をつけたいこと)に分けて整理します。



ふりかえりシート (CD-ROM)

「私のクラスのインターアクション」で行ったインターアクションについて内省をするシートです。PART 3 **ふりかえり 1** の評価のあとに、このシートを使って「よかったところ」「よくなかったところ」などを具体的に記述することにより、内省を深めます。「私のクラスのインターアクション」を録音し、その録音を聞きながら振り返りを行うと、問題点などに気づきやすくなります。

【ポートフォリオ】

学習成果がわかるように、『じゅんびシート』『まとめシート』『ふりかえりシート』『私のクラスのインターアクションのために準備した資料』などをポートフォリオとしてファイルにまとめます。学期の最後に全体を通して振り返ると、学習成果が見える形になり効果的です。また、これらを評価の一部として成績に入れることも可能です。

4 授業時間数

各課の内容と授業のアレンジによって異なりますが、授業時間数は次の例を参考にしてください。(1コマ90分授業の場合)

	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4
1課を5コマで行う場合	1コマ	2コマ	2コマ*	☆
1課を8コマで行う場合	2コマ	4コマ	2コマ*	☆

* PART 3 は **さあ、ほんばん!** に1コマ、**ふりかえり** に1コマを充てます。

☆ PART 4 については、学期の途中または最後に、各課の学習内容を実生活でどのように使うことができたかを振り返る時間をとります。